

岐阜農林事務所の普及活動状況野菜指導係

平成25年1月31日現在

今月の重点活動

岐阜地域普及活動成果検討会開催

1月25日に管内生産者、JAぎふ、関係機関約100名が参加して、岐阜地域普及活動成果検討会を開催した。

「アスパラガス産地づくり」、「アイガモロボット現地実証」、「柿産地の活性化」について農業普及課から発表を行った後、「もうかる農業！～6次産業化の事例より」と題してジェック経営コンサルタント山瀬代表取締役から講演をいただいた。参加者からは、各産地の振興に向けて、引き続き普及の支援について期待の声が多く聞かれた。



【講演会の様子】

活力ある新産地づくり

■ アスパラガス

「アスパラガス専用簡易雨よけハウス」展示ほ場設置へ

農業普及課では、低コストで導入負担が少ない、「アスパラガス専用簡易雨よけハウス」展示ほ場の設置を進めてる。今回は、伊自良方面の山間部に近いところで2棟（3a）のハウスを設置して、生育状況等を調査する。

この独自のハウスは、コストパフォーマンスが高い上に、雨による茎枯病の発生回避と防虫ネットで害虫の侵入を抑える仕様となっており、立茎栽培により安定した収量が期待されます。



【展示ほ場の設置準備】

売れる農畜産物づくり

■ かき 間伐推進・モデル園の設置とせん定指導

次年度の柿生産に向けて間伐の徹底を図るため、瑞穂市で間伐実証区を農業経営課とともに設置した。これからの収量性や品質などへの効果は今後調査予定。

各産地では農業普及課や役員による間伐の個別指導を推進中で、今年はチェーンソーの稼働音がいつもより鳴り響いている。

また、女性部、シルバー人材センター、JA営農経済職員などを対象に、せん定講習会において実技等を含めた指導を行った。



【モデル園の設置】

■ くり・山県市栗生産組合 せん定講習会開催

山県市栗生産組合では、1月28日に中山間農業研究所中津川支所の職員を講師に、せん定講習会を行った。農業普及課からは、果樹経営支援対策事業について説明を行った。

今年度は、選果場実績で「丹沢」がやや増収、「筑波」がやや減収、「利平」がかなりの増収で、全体的に前年比146%の数量であった。全体で前年並みの単価を確保した。

市場からは大玉が求められ、Mでは単価が下落傾向にあるため、講習会では大玉果生産を中心に説明を行った。

■岐阜市だいこん (祝だいこん実績)

だいこん部会では、祝大根反省会を1/17に開催し、農業普及課からは、反省点を踏まえ基本管理の徹底を指導した。

栽培実績 面積377.5a(前年比89%) 39戸(+3-6戸 うち+羽島2戸)

出荷量規格変更して68万本(前年比107%)。作業受託7→12a

守口大根は、155tの受注数量は完納し、PR用ポン酢をおんさい広場等で販売を開始した。

■いちごタイトル いちごハウス内の環境を制御して多収を目指す

・農業普及課では、いちご農家の収益を向上するため、いちごハウス内の環境を正確に測定し、的確に制御して収量を向上させるため、生産部会と協力し、環境制御技術実証機器を設置した。

まだ、導入して間がないが、年末年始の寒波にもかかわらず、実証ほのいちごは草勢も良く、安定的に出荷が可能になった。



【ハウス内環境測定機】

■枝豆 産地の信頼向上を目指し「JAぎふえだまめ部会」全体研修会の開催

1月8日JAぎふ北方支店にて、JAぎふえだまめ部会全体研修会を行った。部会員ら約200人が参加し、生産履歴の記帳などについて現状や課題、次年度に迎える「ぎふクリーン農業」登録更新に向け、栽培基準や表示制度について再確認を行った。

H24年産は生産者の努力により出荷量1,063t(108%)となった。2月上旬には25年産の播種が始まる予定で、出荷量の増加と高品質なえだまめ生産を目指す。



【全体研修会の様子】

多様な担い手の育成・確保

■いちご 新規就農育成に向けた農地の確保

本県地域園芸特産振興会いちご部会の真正支部は、高齢化により生産者が減少し、現在では10名となっている。支部では、生産者をこれ以上減らさないよう、新規就農者を確保するため、就農地の準備を始め、約1haの農地を確保することが出来た。今後は、JAぎふ真正支店を通じて、JA全農岐阜(いちご研修生)や各関係者に情報を上げ、就農者の確保を推進していく。

■集落営農 集落営農システム確立についての打ち合わせ

1月8日に中山間地での集落農地を守るシステムづくりを進める「集落農地を守る営農システム確立事業」の打ち合わせを農業振興課、関係市町で行った。来年度は本県市能郷集落(継続)、山県市柿野集落(新規)を予定している。

山県市の場合は柿野集落の現状について情報共有を行った。今後中心となる担い手や営農システムについて検討していく。能郷集落では防草シートの取り組みや支援事業を活用して、トラクターの導入を予定している。